

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4093300103		
法人名	医療法人豊資会		
事業所名	グループホーム杏		
所在地	福岡県宗像市田野1370番地2号 (電話) 0940-62-6370		
自己評価作成日	令和 6 年 12 月 28 日	評価結果確定日	令和 7 年 3 月 17 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

利用者様が住み慣れた地域で一人一人のご希望に合わせて生活することを目標に、画一的な計画作成をせずにその方に合わせた柔軟なサービスを提供することを心がけている。そのために、職員教育などにも力を入れ、杏らしさは何かをスタッフ一同日々模索している。近隣地域でオンリーワンの存在になれるように、地域コミュニティとも積極的にのかかわり良好な関係づくりに努めている。スタッフやサービスの質を高める為にも、市内の地域密着型サービス事業所のネットワークにも積極的に参加し、事業所間で交流や情報共有を深めるように努めている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	令和 7 年 2 月 5 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

海岸線と並行して走る国道から、少し海側に入った自然環境豊かな場所に、平屋建ての2ユニットの事業所がある。法人は、医療、在宅医療、在宅介護サービス、施設サービスと様々な事業を実施して地域を支えており、当該事業所の、その中の一つとして地域に根差している。「一人ひとりの思いに寄り添う」事を理念にかかげ、常に理念に立ち返りながら、利用者の立場となり考え、日常の業務にあたっている。

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅰ 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着という事業所理念に対しスタッフで協力してチームケアができるように、管理者や職員と考えながら仕事に取り組んでいる。	事業所には地域密着型の視点がある事業所独自の理念があり、法人の理念と交互に、出勤者が多い昼礼で唱和し、意識づけしている。また月2回のカンファレンスの機会にも、理念に沿った行動ができているかを振り返っている。ユニット毎のスタッフルームに理念を掲示している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナやインフルエンザがあり地域との交流は殆ど出来ていないが、毎年地域での清掃活動やイベント等に利用者と参加するなどしている。	自治会に加入し、地域の清掃活動に参加している。小学校や幼稚園が隣接しており、コロナ禍以前は、小学校行事に参加する等の交流を行っていた。再開に向けて協議を始めている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の職場体験や小学生への学習教室などで高齢者体験を実施して高齢者（認知症）への支援や理解の輪を広げている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度会議を開催し、事業所報告や問題点などを議題にあげ役員の意見を介護現場に反映させる場合もある。	運営推進会議は2か月に一度、開催している。参加者は利用者家族、町内会役員、民生委員、市職員、地域包括支援センター職員であり、駐在所からの参加もある。事業所敷地内の畑を地域で活用する案が、会議の中で意見としてあがり、今後、地域住民と一緒に畑を活用する予定である。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域密着事業所なので困難事例やサービスにおいて疑問が生じた時などには都度市に確認するなど関係性は築けている。	事業所運営上でわからないことを、市町村担当者に気軽に相談できる関係性ができている。市内の地域密着型サービス事業が集まり、2か月に1度開催する「地域密着型ネットワーク」に市から参加があり、市のホールを借りて開催している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	カンファレンスの際に研修実施している。スタッフ間で身体拘束しないようなケアを意識して実施している。また、定期的に身体拘束適正化委員会を開催することで身体拘束をしないケアの徹底に取り組んでいる。	ケアを工夫することで身体拘束を行わないことを、事業所の方針としており、実践している。日中、玄関は施錠しおらず、外出傾向のある利用者には、制止することなく、一緒に付き添って歩くようにしている。	

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修をカンファレンス時に実施している。スタッフの一員として利用者に対し虐待しないケアを意識して実践している。他スタッフのケアについても気を付けている。また高齢者虐待防止委員会を開催することで、虐待の防止に努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	カンファレンスでの勉強会にて実践し全スタッフへ共有をしている。ただし実際に活用する場面は無いため、必要なケースは支援していけるように心掛けている。	パンフレットを使って入居時に権利擁護制度について、利用者と家族に説明している。年間の研修計画に組み入れ、内部研修を実施し学んでいる。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時には家族の不安がないよう十分に説明している。疑問点あれば、その都度説明して理解・納得を得るように努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置して、意見や要望を伝えることが出来るようにしている。また定期的に確認を行い、運営に反映させられるように努めている。	利用者からの食事や外出に関する希望に対して、家族と協力しながら、実現に向けて支援している。家族からの意見で、夜間帯の職員配置について、家族から意見が出た時は、ユニット間の協力体制を作り、解決に向けて取り組んだ。落ち着けるように部屋の内装を替えたり、ベッドの配置を変えたりと、希望を反映している。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営についての提案や疑問などがある際は、比較的意見は出しやすい環境である。	年2回フォローアップ面談の際や、月2回のカンファレンスの際に、職員意見を聞く機会を設けている。法人の本部と事業所の管理者、職員間は風通しがよく、メールやオンラインで連絡や相談を行っている。行事や製作活動は職員が主体となり取り組んでいる。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的にフォローアップ面談を行い、労働環境の希望や要望などについても意見を出しやすい環境づくり、都度の対応をおこなっている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	採用面接においては個人との対話を重視しており、性別や年齢などの特定条件によって排除することはないよう配慮している。 また、職員には定期的に面談を行い職場環境の改善を随時おこなっている。	事業所には幅広い年齢の職員が働いており、家庭の事情や、体調、職員の状況により、夜勤などの業務負荷を調整して働くことが可能である。職員がやりがいを持ち働くことができるように管理者が配慮し、各自が役割と責任を持ち業務にあたっている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	カンファレンス等で利用者の情報共有を行い、常に人権を意識したサービスを行えるように取り組んでいる。	人権に関する教育や啓発については、一部の職員が外部研修に参加し、また、内部の研修に関しても年間計画に組み込まれ実施しており、職員全員が学べるようにしている。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修や外部研修等の開催を周知し、自己スキルアップの機会を設けている。またキャリア段位制度の介護技術を学ぶ機会を作ることで働きながらスキルアップが出来るような体制作りをしている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は地域密着事業所の会議へ参加するなど同業者との交流を図っている。職員は他事業所の研修会への参加などコロナ禍前までは実施していたが現在はできていない。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の段階では利用者の安心を確保するために特に意識して本人の話を傾聴し情報収集に努めている。安心できるよう言葉使いも気を付けている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いや意向など、今まで本人と過ごされてきた生活などを意識し、信頼関係を築けるよう努めている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まで必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	職員間で利用者にどのようなサービスが必要か話し合い、提案や対応をおこなっている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家で家族と生活していた時と同様に、生活の場として過ごしていただけるよう関係を構築している。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の現状を考えながら家族の思いも受け止め、一方通行にならないよう一緒に支援できるよう心がけている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族だけではなく友人や知人の面会や、思いつく場所への外出、写真を見たりなどで記憶が切れないよう支援をおこなっている。	利用者の馴染みの人や場所について、アセスメントシートを利用し把握するようにしている。友人が訪ねてきたり、地域の祭りに参加したりと、つながりが継続できるように支援している。教会に出向くことが難しくなった際は、神父さんが訪ねてくる等、今までの習慣や関係が継続できるように取り組んでいる。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が話しやすいよう職員が間に入って話題を提供したり一緒に運動などを行っている。また、孤立しないよう関係を把握し席の配置なども考慮している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も写真データ等家族の希望があれば共有して努めている。また、不安に思っていること等に関して、相談や支援を行うように努めている。		

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者一人一人に思いや考えがあることを意識しながら、その思いを尊重できるよう尽力している。	家族と連携して、本人の意向を尊重し、思いや希望の把握に努めている。家のことを心配する利用者に、職員が同行して訪問する等、本人の思いや意向に沿うようにしている。意思表示をしない利用者には話を聞き出す声かけに工夫をしている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族の話に耳を傾け、これまでの生活や大切にしている習慣など職員間で情報共有している。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の心身状態など把握できるよう努めているが、理解度が足りていない部分もある。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	チームケアの一員としてモニタリングを意識してケアしている。介護カンファレンスを通して職員全員で意見交換をおこない現状に合った介護計画になるよう努めている。	毎月のモニタリングで、担当職員が日々の状態を利用者や家族、各職員、ユニットリーダー、ケアマネジャー、医師等から聞き取りを行っている。介護計画と実際にずれが無いよう確認して、6か月に1度、介護計画の見直しを行っている。退院時や重度化した際は、必要に応じて見直しを行っている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の様子や発言などを介護記録で情報共有しケアできるよう取り組んでいるが、まだ練度が足りていないと感じる。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のニーズを意識しながら柔軟な支援ができるよう取り組んでいる。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者を取り巻く周辺環境を把握し、本人の現状の能力を活用しながら充実した生活ができるよう支援を心がけている。地域の一斉清掃への参加や近隣の小学校との交流、地域コミュニティ行事への参加などもおこなっている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療や訪問看護の協力を受けながら利用者が健康を維持できるようにチームケアとして支援を行っている。	かかりつけ医については入所時に説明を行い、家族の了承を得て、訪問診療をお願いしている。内科と歯科の訪問診療以外は、希望する病院に家族が同行している。家族の都合で職員が同行する場合は、受診結果を家族と情報共有している。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設の看護師に相談、必要に応じて訪問看護と連携をとりながら適切な診療が受けられるように支援ができています。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院の際は医療連携室のソーシャルワーカーや看護師、各専門職との情報交換や場合によっては退院前カンファレンスに参加して関係づくりをしている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	地域関係者は巻き込めていないが、プランの変更も含めて実践し支援している。また、看取りマニュアルを確認しチームケアを行うことで、安心した終末期を過ごせるように努めている。	看取りマニュアルを作成し明文化している。入所時に看取りについての説明をするとともに、状態変化があった都度説明を行っている。重度化の対応については看取りマニュアルを確認し、職員が利用者の状態を共有し、利用者が安心した終末期を過ごせるよう努めている。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変などの事故発生時は訪問看護や病院に連絡し救急搬送など医療指示に従って対応できている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署に協力をおおぎ年に2回避難訓練を行っている。 災害時の備蓄倉庫なども設置しており対策はできている。また災害訓練を運営推進会議の際に行い、推進委員や地区の区長を招くことで、地域との協力体制を築くように努めている。	年2回の避難訓練を消防署の協力のもと行っている。区長や施設役員、家族の参加がある。火災以外の自然災害は地震や、台風、土砂災害の危険区域外で、避難場所は隣の小学校になっているが、消防署からも避難せず、施設内にとどまっている方が安全との助言もある。備蓄品は水、食料品、救急医療品等を3日分準備している。	
【Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	意識してケアをおこなっているが夜間帯など特定の状況下で出来ていないことがある。	利用者の気持ちに配慮した声かけや、声のトーンを変える等の工夫をしている。また、利用者の頭ごしに話をする、わからないからいいだろうなどの考えを持たないよう、職員同士で気をつけ合っている。プライバシーに関して内部研修を行っており、機会があれば外部研修への参加を考えている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定を促し本人の思いで生活できるように意識して取り組んでいる。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望やペースに合わせた支援をおこなっているが、全員の希望にはそえていない時がある。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望があれば希望にそうようにしているが、本人の意向がない場合は季節感を意識した服装をスタッフが選ぶなど支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人のペースで食事がとれるように考慮している。出来ること出来ないことを把握し手伝いをお願いするなどチームケアで取り組むようにしている。	法人に給食部があり、そこで準備している。野菜の種類を多く使い、利用者に合わせて形態の食事を準備している。旬の食材を使ったり、ひな祭りやクリスマスなど季節ごとの行事食を提供し、食事を楽しめるようにしている。	

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状態を見ながら摂取量を確認し記録に残している。個人に合わせた食器を使用したり食欲不振のときは食べやすい物を提供したり支援できている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員間で連携をとりながら、一人一人の口腔内の状況を把握し、必要なケアを提供している。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握しトイレ誘導をおこなっている。同性を希望される方には同性介助を心がけている。	利用者のサインを見逃さないようにし、さりげない支援を行っている。排泄チェックをデータ管理し、どこでも確認できる形にし、情報共有している。月に2回のユニットカンファで利用者の個別対応を細やかにして、パットの解消につながる等、一人ひとりに合わせた支援を行っている。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者の排便状況や便の状態を確認して訪問診療時の指示で対応できている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	利用者のペースやタイミングに合わせて入浴をおこなうようにしているが、出来ない時もある。	原則週2回の入浴だが、希望に添うよう毎日入浴できるようにしている。入浴は楽しんでもらうため、時間制限をしないように心がけている。入浴を希望しない利用者には、声かけを工夫して誘導する等の工夫をしている。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間帯、利用者がゆっくり休めるよう個人に合わせた対応をしている。実施した内容は必ずケア記録に残している。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬がないよう服薬介助は慎重におこなっている。職員間で情報共有し確認をおこなっている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一日一回でも楽しんでいただけるように取り組んでいるが、全ての利用者に対応できていないと感じるときもある。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出レクなどの実施や、希望により近隣を散歩するなど実施している。	事業所の周辺を散歩している。近所の梅の花の見物等のドライブ、外食は月1回のペースで行っている。買い物は家族と一緒にいたり、事前に家族の了解を得て、職員が同行したりしている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	法人の方針で金銭の所持は控えていただいている。外食レクなどで支払いがある場合は事前に家族へ確認の上事業所で立替えているため所持の支援はできていない。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの手紙を本人に渡したり、電話をつないで直接話せる環境ができています。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内でも季節を感じられるような工夫をしている。居室やリビングなどでも利用者個人に合わせた環境づくりに取り組んでいる。	季節に応じた環境整備を行っている。職員と一緒に利用者が作成した飾りや、職員が描いた利用者の似顔絵が貼られていて、利用者の楽しみとなっており、居心地の良い空間となっている。	

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングなどの共用の場で対立や孤立しないよう席の配置に考慮している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に利用者の馴染みの物を持参していただいたり、好みのもを配置して本人が安心できる居室を心がけている。	ベッドは事業所の据え置きだが、その他は利用者の好みのもを持参し、その人らしいしつらえにしている。家族の写真を持参するよう推奨している。以前はキリスト教の祭壇を持ち込んだ利用者もいる。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室では利用者の身体機能に応じた家具の配置やセンサーの設置など安全な環境づくりに努めている。体操や運動に参加していただき身体能力が維持できるよう努めている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)		①ほぼ全ての利用者の
			○	②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
			○	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)		①ほぼ全ての家族と
				②家族の2／3くらいと
			○	③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
			○	③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている
				②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2／3くらいが
				③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅰ 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日昼礼時に唱和し共有、及び実践につなげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ拡大もあり減っていたが、地域の清掃への参加等交流できている。また地域のイベントにも参加している。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2か月に1度の運営推進会議にて地域の方へ向けて報告を実施している。また、中学生の職場体験やこども大学を通じて認知症についての理解や支援方法などの普及に努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度会議を開催し、実績報告を行い、実際に挙げた意見を通じて日々のケア、サービス向上に向けて活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や地域密着ネットワークを通じて、事業所の実績報告やサービス内容の取り組み報告を行っている。また、制度面での不安事項などは担当者に確認するなど連絡を取ることで、透明性のある事業運営に努めている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	カンファレンスでの勉強会を実践することで身体拘束ゼロに努めている。また、定期的に身体拘束適正化委員会を行い、身体拘束をしないケア作りに取り組んでいる。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファレンスでの勉強会を実践することで虐待の防止に努めている。また、定期的に高齢者虐待防止委員会を行い、小さなことから虐待を見過ごされることがないように、また防止に努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	カンファレンスでの勉強会にて実践し全スタッフへ共有をしている。ただし実際に活用する場面は無いため、今後必要なケースは支援していけるように心掛けている。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時には家族の不安がないよう十分に説明している。疑問点あれば、その都度説明して理解・納得を得るように努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置して、意見や要望を伝えることが出来るようにしている。また定期的に確認を行い、運営に反映させられるように努めている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス等で職員への意見聞き取りの場を作り実践している。また定期的に面談を行うことで、意見や提案を聞く機会を設けている。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	フォローアップ面談の際に、安心して就業出来るように職員の意見を聞く機会を設けている。その中で話し合った内容を本部に伝え、条件面の見直しや改善を行っている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	募集、採用の際は業務に対する適正とやる気を第一に対話を重視している。また、各職員の家庭事情や状況に合わせて勤務帯に融通を付けることで、社会参加や自己実現の機会が取れるように配慮している。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	カンファレンスにて共有し常に意識出来るように発信している。また、人権の尊重を意識したサービスの提供が出来るように取り組んでいる。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリア段位制度における介護技術の勉強会を行い、働きながらキャリアアップが出来るような取り組みを進めている。また、各種研修案内を行い、希望時は参加出来るような体制作りに取り組んでいる。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は定期的に地域密着ネットワークを利用しての会議に出席して、地域内の同事業所や同業者との交流する機会を作っている。ただしコロナの影響もあり、現場職員が同業者との交流を行う機会は作れていない。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初めにインテーク面接を行い、不安に思っていること、困っていることを明確にすることで、取り組むべきケアを充実出来るように努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様とも日々極力やり取りをしつつ関係性の構築に努めている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	職員間でも常に情報教諭し支援に生かしており必ず変更時、決定時には家族へ報告している。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人の人間として、また人生の先輩として常に尊重して敬う意識を忘れずに関わりを持つことを意識している。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に直接お会いする機会を大切に、最近の様子や困ったことなどないかをそれとなく聞くように努めている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時等なじみのものを持ってきていただいたりと努めている。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性等考え配席を行っている。コミュニケーションが苦手な方に関しては職員が間に入り、孤立しない関係作りに努めている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も写真データ等家族の希望あれば共有して努めている。また、不安に思っていること等に関して、相談や支援を行うように努めている。		

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人本意で安心して生活できるように努めている。また、意向の把握が困難な場合でもご家族と話し合いを行い、本人のその人らしさを念頭に支援を行っている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴等を考慮し支援に努めるように心掛けている。その中で本人の持っているストレングスを活かして自立支援に努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方に配慮しつつ、体調や気分に応じて、職員間で情報共有をすることで状態の把握に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各担当者ごとに毎月モニタリングを実施している。本人やご家族、各職員含めて現在の状態に合わせた介護計画の作成に努めている。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきは介護記録にて常に共有していき、支援に役立てている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに沿ったサービス提供を目指し実践している。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の草刈りへの参加や中学生の職場体験の受け入れ、こども大学への参加を通じて地域資源の開発を行っている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隔週での訪問診療にてインフォームドコンセントをベースに適切な医療サービスを提供している。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気づきや状態の変化等観察を行い、職場内の看護師や訪問看護に適宜相談を行い、適切な対応が出来るように努めている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院の際は医療連携室のソーシャルワーカーや看護師、各専門職との情報交換や場合によっては退院前カンファレンスに参加して関係づくりをしている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	地域関係者は巻き込めていないが、プランの変更も含めて実践し支援している。また、看取りマニュアルを確認しチームケアを行うことで、安心した終末期を過ごせるように努めている。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変事故対応は常に発信し、実践している。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の総合訓練含め、全職員へ共有し実践している。また、災害訓練を運営推進会議の際に行い、推進委員や地区の区長を招くことで、地域との協力体制を築くように努めている。		
【Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	カンファレンスの際に勉強会を行い、人権尊重やプライバシーの確保について学ぶ機会を持っている。また、人生の先輩として、失礼の無いように言葉かけや対応を行っている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人の思いや希望を確認するための声掛け実践をしている。常に自分で選択出来るように尊重することで自己決定に努めている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースや体調、気分に合わせて充実した毎日が送れるように自立支援をベースに声掛けや毎日の過ごし方を決めていただくための声掛けを実践している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ネイルをしたり、おしゃれを楽しんで頂ける取り組みをしている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備に関して食事、おやつ作りを不定期の行事にて実施している。片付けに関しては可能な方には皿拭きをお手伝いして頂いている。職員と食事をするに関しては感染対応の関係で実践していない。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の献立にて提供し実施している。また定期的に体重測定を行い、水分食事量が少ない方に関しては提供の時間や量、形態などを考えていく。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは必ず実施している。また定期的に訪問歯科診療にて口腔ケアを実践して頂いている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄間隔を確認して、排泄面での自立をして頂けるように取り組んでいる。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	午前の体操、午後からのレクにて体を動かすようにして頂き、便秘の解消に努めている。また、水分をしっかりと取って頂くように声掛け促しをしている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	週2回～3回の入浴または清拭を本人の体調や気分に応じて行っている。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の落ち着ける環境を整えて、安心して休めるように取り計らっている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋の共有と毎日の薬の読み合わせにて理解するようにしている。また、服薬状況や状態に関してはその都度確認を行い、隔週の診療の際に医療につなげるように努めている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	全体でのレクリエーションを行ったり、個別アクティビティを行い、楽しく過ごせるように努めている。また、気分転換に散歩や気候に合わせて外出レクなども行っている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月間行事にて外出支援を行っている。ご家族との関係性を保っていただく為にも外出に協力をいただくように声をかけている。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設内は貴重品の持ち込みはお断りしている為、金銭管理はご家族様をお願いしている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りや電話など、希望時に適宜対応している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	事業所内に居ながらも季節感を感じていただけるように、四季に合わせて飾りつけを行っている。照明や湿度などは常に快適性を求めて保っており、リラックスできるような音楽を流すことで居心地の良い空間づくりに努めている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方通しでお話を楽しんだり、一緒に過ごせるように配席には工夫をしている。また、希望時には居室で過ごして頂いている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人の使い慣れた物を持ってきていただき、安心して過ごして頂けるように工夫をしている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー構造となっている。また、各所に手摺を設置しており、室内は明るく見やすいように大きな窓を備えている為、安心して自立した生活が送れるように工夫している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)		①ほぼ全ての利用者の
			○	②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
			○	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)		①ほぼ全ての家族と
				②家族の2／3くらいと
			○	③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		①ほぼ毎日のようにある
			○	②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている
				②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2／3くらいが
				③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない